

# 第3学年 国語科学習指導案

2組 計22人(男子11人女子11人)

指導者 久永浩幸

1 単元 「大事なことをたしかめよう」(教材「すがたをかえる大豆」光村3年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、「ありの行列」で、段落について知り、段落ごとに書かれている内容をとらえる学習を行ってきた。また、「おもしろいもの、見つけた」で、事柄ごとに段落に分けて書くことも学んできている。

そこでここでは、大豆の加工法を紹介した教材文を、段落やキーワードなどに注意しながら読み取り、疑問や興味をもった食べ物についての情報を収集、整理し、文章にまとめることをねらいとした単元を設定した。

教材「すがたをかえる大豆」は、身近な大豆やその加工品について書かれた説明的な文章である。文中に出てくる大豆の加工品は、見ただけでは大豆からできているとは気付かないものも多く、子どもたちが意外性をもって読み進められる内容である。文章構成は、「ありの行列」のような仮説・検証型とは異なり、初めに説明する対象物を提示し、それについての説明を施すという解説型になっている。段落構成や中心文、キーワードが明確であるとともに、接続語が多く使われているため、読み取りやすい教材であるといえる。

本単元で子どもたちは、「くふう」「すがた」「手の加え方」を手がかりに中心となる語や文に目を向け、比べながら読んだり、「次に」「また」などの接続語の働きによって、論理の展開をとらえたりすることができる。その中で、大豆を様々な姿に変えていく事例にふれ、筆者の考えである「昔の人々の知恵」に共感することができる。また、興味をもった食べ物について、本を使って調べることで、必要な情報を適切に収集、選択する初歩的な力を育てることができる。さらに、教材文の文章構成を参考にして、食材が姿を変える解説文を書き、感想を交流し合うことで、友達の表現のよさに目を向け、自分の表現に生かそうとする態度を育てることもできる。

ここでの学習は、4年生での、各段落の内容とそのつながりを考えながら読み、初め・中・終わりの大きなまとまりの内容や役割をとらえる学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

身近な食べ物について興味をもち、その不思議さや驚きを発見しながら、「食べ物シリーズの本」を読もうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】

興味をもった身近な食べ物について調べたことを、大判付箋紙に書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書くことができる。 【書く能力】

大豆が姿をかえることについて、中心になる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読むことができる。 【読む能力】

文章全体の組み立てを考え、段落の役割を意識しながら読んだり書いたりすることができる。 【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、物語を中心に読書活動を進めている子どもが多いが、図鑑等で調べる学習が増えたこともあり、科学的な読み物に興味をもつ子どもが増えてきた。また、日常的に音読を行ってきたので、既習単元については適当な速度と正確さで読める子どもが増えてきた。書く活動については、現在、丁寧さとスピードの両立を目指している段階であるが、テーマ日記や指定接続語を入れた日記に取り組んでいるため、少しずつ内容や量において、変化が見られ始めている。話し合い活動については、グループでの話し合いが停滞気味になるので、司会力を高めるために、日直を全体司会に立て、指名や簡単なまとめを行わせてきているところである。ただ、すべて、取組や定着に個人差が大きく、教師の支援にかなり依存している子どももいる。

イ 本単元の内容に関わる実態

段落の意味を理解しているか。
理解している 14名 曖昧である 8名(内:番号を正しく付けられる6名)
順序を表す言葉に着目して、文を並べ替えられるか。
正しくできる 20名 正しくできないことがある 2名
問いの文を探ることができるか。
探ることができる 17名 探ることができないことがある 5名
加工品がどの食材からできているか知っているか。
パン 13名 チーズ 8名 マヨネーズ 3名 はるさめ 2名
大豆の料理法を知っているか。
にる 12名 やく 5名 いためる 5名 つぶす 3名 ふかす 1名
大豆からできる加工品を知っているか。
とうふ 13名 豆乳 6名 しょうゆ 2名 もやし 2名

1学期単元「ありの行列」で、問いやまとめの言葉、順序や時間の経過が分かる言葉に着目した読み取りを進めてきた。そのため、それらのことを意識した読み取りができる子どもが増えてきた。段落については、うまく説明できないまでも視覚的には理解しており、多くの子どもが形式段落に自力で番号をふることができる。また、小見出しまではつけられないが、全員で読み進めると、段落ごとの大体の内容は理解できるようになってきている。

言語に関する実態については、日頃の学習の様子から、短文作りを楽しんでいる子どもは多いが、日記や作文などの長文になるとなかなか進まない子どもがいる。また、句読点や「」の使い方、主述の整った文章の書き方が十分とは言えない子どももいる。書く時間についても、個人差が非常に大きい。本単元に関する内容については、断片的な知識にとどまっており、初めて知ることが多いことが予想される。

3 指導に当たって

本単元では、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように以下のような点に留意して指導する。

1 研究の視点1(子ども一人一人が読む目的をもち、読みたいと感じる授業づくり)

- ・ つかむ段階で、実際に大豆とそれを料理した物や加工品を提示し、それらが全て大豆でできていることを知ることで、大豆という素材に興味・関心をもつことができるようにする。また併せて、大豆以外にも姿を変えている食材があるはずだという意識まで高め、本教材文の構成を参考に、「みんなが調べたことをまとめた本にする」という言語活動を設定することで、目的意識をもって読み進められるようにする。

2 研究の視点2(子ども一人一人が自分の読みの高まりを実感できる授業づくり)

- ・ 深める段階で、読みの能力に応じたワークシートを2種類準備することで、個に応じた読み取りができるようにする。また、全体と部分とのつながりをとらえやすくするために、文番号の入った「教材一枚文」を準備する。さらに、全体と部分の行き来が困難な子どものために、中心文、キーワード、接続語だけが浮かび上がる「読み取りお助けシート」を数種類準備する。一人調べにおいては、サイドラインや矢印、四角囲みを駆使できるように、「こうやって引こうカード」を準備し、活用できるようにしておく。
- ・ 味わう・高める段階では、重ね読み教材「すがたをかえる米(自作)」と「こうやって作ろうカード」を準備し、教材文だけでは食材の変身文に移れない子どもが参考にできるようにする。また、調べ活動の際は、一人一人に大判付箋紙を準備し、文の配置を自由に動かしながら思考できるようにする。

3 研究の視点3(子ども一人一人が読むことを楽しみ、学んだことを広げていく学習のあり方)

- ・ まとめる・広げる段階で、書いた解説文を読み合い、感想を交流し合うことで、友達や自分の表現のよさに気付き、今後の自分の表現に生かすことができるようにする。また、作った文章を本にまとめ、図書室に置くことで本作りのおもしろさを感じることができるようにする。

4 指導計画(全17時間)

は評価項目及び評価方法

は研究の視点に関する内容(1は視点1, 2は視点2, 3は視点3)

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 教材文の の段落と大豆の実物とを重ね合わせて読む。	1 大豆の実物に触れさせ、大豆の姿を変える必然性をとらえさせながら、学習への意欲を高めることができるようにする。
		2 「すがたをかえる大豆」の全文を読み、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 「食べ物のはかせ」になって、みんなで作ろう。	大豆の姿をなぜ変える必要があったのか考えながら読み、これからの学習を見通しているか。 (発表・観察)【国語への関心・意欲・態度】 自分の興味をもった食べ物を詳しく調べ、文章にまとめ、食べ物の本を作ることを知らせることで、学習の見通しがもてるようにする。
深める	5 (本時2/5)	3 新出漢字や分からない言葉を調べる。	2 ページをめくって思考が滞らないように、文番号の入った「教材一枚文」を準備する。
		4 「中」の部分を読み、筆者が調べたこととその整理の仕方を調べる。 調べたことはどんなことか。 (おいしく食べる工夫と大豆の姿(食品))(手の加え方)どのように整理しているか。 (分かりやすくする書き方)	「ありの行列」の「教材一枚文」を再度配布し、本教材文と文章構成を比較できるようにする。 2 読みの能力に応じたワークシートを準備することで、個に応じた読み取りができるようにする。 2 全体と部分の行き来を支援する「読み取りお助けシート」を準備する。 2 サイドライン等の一人調べを支援するために「こうやって引こうカード」を準備する。
味高める	8	5 「はじめ」と「終わり」の部分の役割について考える。 参考にしたい言葉を整理する。 「はじめ」「中」「終わり」に分ける。	指示語や接続語に着目し、段落のつながりを考えながら、正しく読み取ることができる。 (ワークシート・発表)【読む能力】
		6 「食べ物のはかせになろう」を読み、本作りの準備をする。 どの食べ物について調べるかを決め、本作りまでの計画を立てる。 本を使った調べ方を知る。 目的に合った図書資料を探す。 本で調べたことや調べて分かったことなどを付箋紙にまとめる。 付箋紙に書かれた文章を並べ替えながら、順序や段落を決定していく。 清書する。	2 重ね読み教材「すがたをかえる米(自作)」を準備し、完成文のイメージがもてるようにする。 2 なかなか活動に移れない子どもに「こうやって作ろうカード」を与え、自力解決のヒントにする。 書く順番や段落を、並べ替えながら決めることができるように、大判付箋紙を準備し、数枚ずつ配布しておく。 興味をもった身近な食べ物について調べたことを、付箋紙に書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書くことができるか。(観察・カード・作品)【書く能力】
ま広げめる	2	7 前書きや目次、表紙の題名を考え、本を作る。 8 「食べ物のはかせ」交流会を開く。 完成した本を読み合い、段落やまとめ方に着目しながら、感想を述べ合う。	グループごとに、本作りに必要なことを分担できるようにし、一個人の負担にならないようにする。 3 完成した本を図書室に展示することで、完成の喜びを味わわせるとともに、本作りのおもしろさが実感できるようにする。 「身近な食べもののひみつ」シリーズの本を紹介し、興味関心を高めることができるようにする。

5 本時(4/17)

- (1) 目標 「中」を読み、大事なこと(おいしく食べる工夫、大豆の姿を変えた食品)を接続語などを使って順序よくまとめていることが分かる。  
 (2) 展開 教師の言葉かけ 予想される子どもの反応 重点評価項目 個に応じた支援  
 は、研究の視点に基づく指導・支援 (2は視点2)

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (7)	<p>1 前時を振り返り、大豆の姿を変える必要性を確認する。                  大豆の姿を変えて食べているのはどうしてかな。                  かたい大豆は、そのままでは食べにくいから。消化によくないから。</p> <p>2 学習の課題を確認する。                  調べた「くふうや食品」をどのようにまとめているだろう。                  工夫がいくつあるか予想してみよう。また、どうしてそう思ったかな。</p> <p>3 学習の進め方について確認する。                  「中」を読み、どんな工夫や食品があるかワークシートに書きましょう。また、どんな言葉を使って、どんな順序でまとめているか調べましょう。</p>	<p>「～気づかれないのです。」と「大豆は、ダイズという植物のたねです。」をキーワードとして、確認する。                  大豆の実物を準備し、堅い種だから「食べにくい」「消化によくない」ことを確認する。                  2 読みの能力に応じたワークシートを2種類準備することで、個に応じた読み取りができるようにする。                  2 ページをめくることで思考が滞らないように、文番号の入った「教材一枚文」を準備する。                  「中」の全文を書いた用紙を黒板に提示し、一人調べがスムーズに行えるように、最初の工夫の部分だけ教師とともに確認する。                  (工夫・・・赤の直線、食品・・・青の囲み)</p>
深める (23)	<p>4 ワークシートに自分の調べたことを書く。                  ・「中」を読む。 ・工夫や食品がいくつあるか調べる。                  ・どんな言葉を使って、どんな順序でまとめているか調べる。</p> <p>5 おいしく食べる工夫や大豆の姿を変えた食品を確認する。                  こなをひいて食べる工夫などがあります。に豆やきなこなどがあります。</p> <p>6 4+1の工夫をどんな順序でどのようにまとめているか話し合う。                  工夫をどんな順序でまとめているかな。また、工夫が5つあることを文の書き方で気付いたかな。</p>	<p>大事なことを接続語などを使って順序よくまとめていることが分かったか。                  (ワークシート・発表)【読むこと】                  ワークシートに適切にかけている子ども                  工夫がいくつあるかすぐに分かるようにまとめてあるのではないかという視点で、再度文を読むように助言する。                  なかなかワークシートにかけない子ども                  全体と部分の行き来を支援する「読み取りお助けシート」を2種類準備する。                  ・「くふうが見えるよシート」                  ・「この食品ですシート」</p>
味高 わめ うる (10) ま と め る (5)	<p>ななかなか気づかれないから、分かりやすい順にまとめているよ。                  「くふう」という言葉を探したら、5つ見つかったよ。                  順序を表す言葉に目を付けたら5つあることが分かったよ。                  段落ごとに1つの工夫が書いてあるから5つあると分かったよ。</p> <p>5つめの工夫だけ、何か少し違うね。 あっ種のことじゃないぞ。</p> <p>7 「おいしく食べる工夫と大豆の姿を変えた食品」の部分強調して、今日の学習の範囲を読む。(一斉音読)</p> <p>8 自分の書く文章に生かしたいことを発表する。                  「次に」「また」などの言葉を使って書きたいです。</p> <p>9 次時の学習を確認する。                  次は、どのように大豆に手を加えて食品を作るのか、くわしく読み取っていきましょう。</p>	<p>「これらのほかに」の意味が理解できるように、の段落だけが大豆ではなく、ダイズになっていることを助言する。                  強調読みは初めてなので、最初に一部範読してから読むようにする。                  自分の文章に生かしたいことを考えさせることでこの読み取りの意味を確認できるようにする。                  次時の学習を学習計画表で確認し、意欲付けを図る。</p>